

キラリと光るオンリーワンのまちづくり

美濃市長 石川道政



1. はじめに

美濃市は濃尾平野の最北端にあり、岐阜県のほぼ中央に位置する人口約23千人の都市です。

面積は117.05 km²で東西12.5km、南北15.8km。市域の8割以上を山林が占め、中央を南北に清流長良川が貫流、板取川がこれに合流するなど豊かな自然に恵まれた風光明媚な地であります。

1300年の歴史と伝統を誇る「美濃和紙」の産地であり、江戸時代に築かれた城下町の姿を今なお残し、数多くの「うだつ」が町家に残る町並みとして全国に知られる歴史・文化の香り高いまちでもあります。



市街地を上空から望む

2. まちづくり方針

美濃市は平成7年12月に都市計画マスター プランを策定し、『水と緑に恵まれた快適創造空間 みの』を都市づくりの理念に掲げ、優れた自然環境や歴史・文化の保全と活用、高速交通網の結節点という地の利を活かした産業の活性化、快適な生活空間の創出を図ってきました。



賑わいをみせるうだつの町並み

また、平成8年には市街地整備マスター プランを策定し、衰退が危惧されていた中心市街地の活性化を推進するため、うだつの町並みを中心とする新たな美濃市の顔づくりに取り組んできたほか、平成15年には本市の歴史・文化や伝統を育んできた長良川や板取川をはじめとする河川に着目したまちづくり指針として「日本まん真ん中美濃市まるごと川の駅構想」を策定し、自然や水環境の保全と再生、川との関わりを深める拠点施設の整備、地域文化や伝統の継承・発展を図ってきました。

こうした中、平成15年7月に国が公表した「美しい国づくり政策大綱」において、地域における良好な景観形成が国政上の重要課題に位置付けされると、それ以前から取り組んできた景観形成事業をより実効性の高いものとするため、平成17年6月に県下4番目の「景観行政団体」となり景観形成基本計画及び景観計画を策定。昨年4月からは景観条例を施行し、本市の恵まれた自然や歴史・文化的景観を守り育てるとともに、次世代へ継承するための取り組みにも着手したところであります。

3. うだつの上がる町並みの整備

衰退化する市街地を再生することになった町並みの整備事業は、平成11年5月に「うだつの上がる町並み」が国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けたことにはじまります。勿論それ以前から町並み保存の動きはありましたが、この選定を契機に美濃市総合地区整備計画を策定し平成12年度から15年度までの4カ年計画で、国のまちづくり総合支援事業の認定を受け、町並みにおける電線類地中化、道路修景、ポケットパークやサイン整備のほか街路灯の整備などを実行しました。



電線類地中化後の町並み

電線類の地中化と道路修景においては、歴史的な町並みと調和するように青味がかかった自然石を骨材に用い、人工的につけた色とは違う独特の柔らか味をもった趣きがある舗装としたほか、交差点部分は交通安全上の注意喚起を行うため赤錆色の御影石張りを実施し、道路に変化を与え速度抑止効果を図ったほか、路側線や横断歩道部分は赤色や白色の御影石を効果的に配置し、道路舗装にあつたデザインとしました。



石張舗装（交差点部分）

また、電線類の地中化に伴う各家庭への電気ケーブル等の立ち上げについては、管や配線がむき出しにならないよう木製の修景カバーを設置し、町並みに配慮したものとしました。



立ち上がり管を覆う木製の修景カバー

一方、町並みにおけるファサードを分断していた空き地は買収し、隣接する町並みと連続性を失わないよう入口に格子塀を設けたポケットパークとして整備するとともに、電線類の地中化に伴うトランスのほか公衆便所を設け、利便性を確保することはもちろん、町並みに配慮した憩いと安らぎの空間づくりに努めました。



入口に格子塀を設けたポケットパーク

このほか、町並みへ誘導するサイン類のデザインを統一するとともに、道路標識も公安と協議の上、景観に配慮した茶色の支柱でひと回りサイズの小さいものを設置しました。

何より、この町並み整備の中で特徴的なものは、街路灯と各家庭の門灯の機能を兼ね備えた聖なる風の照明器具を各家庭の軒先に設置したことです。当初計画では電線類の地中化後にポール形式の街路灯を道路沿いに設置する予定でし

たが、地中化等により修景された町並みに街路灯のポールはそぐわないという住民からの意見に基づき、行政と住民が一体となって試行錯誤した結果、各家庭の軒先に街路灯機能をあわせもった照明器具を設置するというアイデアが生まれ、実施に至りました。

以上、4カ年にわたるまちづくり総合支援事業により町並みの基盤整備はほぼ完了したわけですが、これと並行して行われ、現在も続く事業が伝統的建造物の修理・修景事業です。当初は町並み整備にかかる莫大な費用や建物にかかる数々の規制に対し住民からは疑問や反対の声も聞かれましたが、日々変わっていく町並みを前にそうした声も少なくなり、積極的に家屋改修や修景事業に取り組む人が増え、現在までに約80件程の修理・修景を行ってきました。



修景が行われた町家

市では、こうした住民気運の高まりなどを背景に、町並みの魅力をより一層高めようと平成16年度から20年度までの5カ年計画で、まちづくり交付金事業（現在の都市再生整備計画事業）により地区内の歴史的建造物を利用した集客施設の整備や、町並み周辺の魅力づくりを進めてきました。

具体的には、町中の近代建造物を買取り、市を代表するイベント「美濃和紙あかりアート展」が年間を通じて楽しむことができる常設展示館として整備したほか、車で訪れる観光客が安心して利用できる多目的広場を兼ねた大型観光駐

車場や公衆便所の整備、町並みに隣接する里山の修景整備、車だけでなく自転車を楽しむ人の拠点でもある道の駅の整備を行いました。



道の駅「にわか茶屋」

約10カ年にわたる町並み整備により、衰退の危機にあった町並みは見事に生まれ変わり、町並みを利用したイベントも数多く行われるようになり、中でも美濃和紙を使ったあかりのオブジェを町並みに展示する「美濃和紙あかりアート展」は2日間のイベントに約10万人が訪れる市を代表するイベントとなりました。

以上、住民と行政が一体となって進めてきた町並み整備は全国的にも認められ、美しいまちなみ大賞をはじめ地方自治総務大臣表彰など全国レベルの賞を数多く頂くことができました。

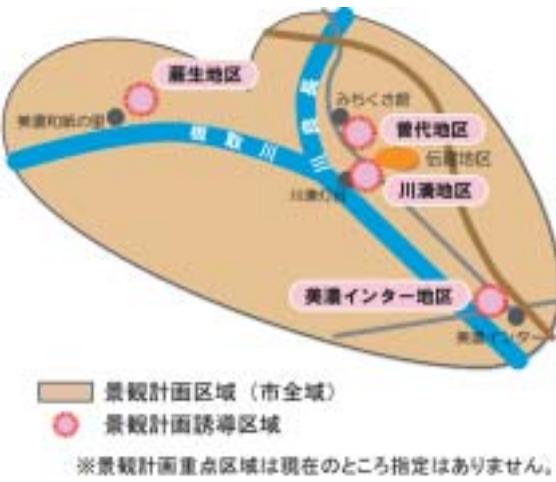


ふるさとイベント大賞を受賞した美濃和紙あかりアート展

4. 景観まちづくり

美濃市の魅力はうだつの町並みだけではありません。市内各地に点在する自然豊かな景観や、歴史と伝統に育まれた文化的景観は、市民共有の財産であり市民の誇りであります。

市ではこれら美濃市らしい特徴ある景観を守り育て、そして将来へ引き継いでいくために平成21年3月に景観計画を策定し、市内全域を景観計画区域に指定しました。景観計画では、住民や行政の責務を明確化し、良好な景観を形成するための方針を策定するとともに、建築物等の建築に対し届出・勧告を基本とする規制・誘導を盛り込んでいます。



景観計画区域図

中でも、景観計画誘導区域として定める4地区については、景観まちづくりのモデル地区として良好な景観形成が望まれるとともに、将来的には地区住民の手により景観形成のための独自の目標とルールづくりなどが期待されるところであります。

○川渕地区

うだつの上がる町並みと長良川・川渕灯台を結ぶ旧街道沿いに広がる地区であり、ゆるやかにカーブした沿道に町並みが連続し、長良川や小倉山等の水と緑の自然景観や美濃橋、曽代用水、岩陰遺跡などの歴史文化景観により、川渕

独自の景観が形成されています。

地区に残された史跡や歴史的建造物を貴重な景観資源として活用するほか、地形や自然を活かした景観づくりを進めます。



歴史文化景観を形成している川渕地区

○美濃インター地区

美濃インター前土地区画整理事業により創出された地区で、美濃インターに隣接する美濃市の重要な玄関口のひとつです。来訪者が最初に美濃市のイメージをつくる場所であり、土地区画整理事業や沿道サービス系の商業業務機能の集積により、新しい美濃市の景観づくりが求められます。

背景の山並みなどの自然と、商業施設や道路、屋外広告物などの都市機能が調和した景観づくりを進めます。



新しい景観づくりが期待される美濃インター地区

○曽代地区

長良川の流れから形成された河岸段丘上に位置し、農業用水として整備された曽代用水沿いに広がった集落が、市街地と農山村をつなぐ地として自然と調和した景観が広がります。

曾代用水を潤いある水環境空間として、地区の景観軸として育てる中、自然と暮らしが調和した快適な歩行空間を創出する景観づくりを進めます。



地区の中心を農業用水が流れる曾代地区

○蕨生地区

美濃和紙の産地として紙すき工房が広がる集落で、日本瓦葺きの家並みが広がる。和紙の製造過程である川ざらしや板干しなどの文化的な景観と相まって和紙の里としての風情が漂う地区です。

紙屋や川屋など伝統産業を伝える建築物や川ざらし、板干しなどの伝統産業の工程を貴重な景観資源として活用した景観づくりを進めます。



和紙の里の風情が漂う蕨生地区

5. 歴史まちづくりへの取り組み

平成23年は美濃市第5次総合計画がスタートする年です。

計画の中では、歴史や文化、自然環境を活かしたまちづくりを基本施策の一つに掲げており、具体的な事業として平成20年11月に施行され



うだつの町並みで行われる花みこし

た「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」に基づく歴史的風致維持向上計画の策定と、同計画に基づいた歴史まちづくり事業があります。

歴史的風致とは、地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境を言い、例えば歴史的な町並みとそこで繰り広げられる祭礼や伝統芸能、歴史的な建造物やその周辺で行われる伝統産業などを歴史的風致として整理することで、教育・文化財行政と都市計画行政が歴史まちづくりという方針のもとで総合的に連携して事業を進めていくものです。

現在、歴史的風致維持向上計画の策定作業を進めており、早い時点で国の認定を受け、計画の質を担保するとともに予算上の特例措置を受け各種事業の実現に向けて努力していきたいと考えております。



牧谷地区で見られる和紙の板干し

6. 美濃市の土地区画整理事業

本市における土地区画整理事業はすべて組合施工で行われており、現在までに4組合44.4haで施工・完成、1組合12.5haで今も工事を実施しています。

市で最初の区画整理事業となった美濃市中有知土地区画整理事業組合は、昭和58年に松森地区における公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を目的に設立され、14年間で約26億円をかけ26.5haを施工しました。

その後、相次いで組合が設立され、美濃市笠神土地区画整理事業組合は、長良川沿いの農地2.9haを、平成6年より6年間で約3億1千万円をかけ施工。美濃市美濃西部土地区画整理事業組合は、農地の中央に山林がある11.6haを平成12年より9年間で約10億1千万円をかけ施工。美濃市曾代土地区画整理事業組合は、平成15年より6年間で約2億3千万円をかけ3.4haを施工し、地区の北側には道の駅「美濃にわか茶屋」も開駅されました。

そして現在も施工されているのが、美濃市の表玄関で広域交通の結節点である美濃インターの前に位置する美濃市美濃インター前土地区画整理事業組合です。インター前に広がる12.5haで、南側に隣接する県道岐阜美濃線沿いを商業・サ



大型商業店舗や宅地開発が進む美濃インター前土地区画整理事業組合

ービス業の集積地として、北側は住居区域として工事を実施しています。

7. 美濃病院跡地周辺土地区画整理事業

中心市街地の東部で検討されているのが美濃病院跡地周辺土地区画整理事業です。

本地区は、全域が長良川鉄道駅から1km圏内に含まれ、県道美濃川辺線が隣接市へのアクセス道路となっており交通の利便性は高く、小学校や中学校、保育園や幼稚園も近くにあるため教育施設へのアクセスも良好です。また、本市の中心市街地であるうだつの上がる町並みに隣接した地区です。

しかし、地区の中央部では休耕農地も多く土地の有効利用が期待されることから、市では病院跡地を核とした公共施設の充実を視野に入れた区画整理事業の可能性を、平成19年度から検討してきました。

今後も引き続き区画整理事業をはじめとする中心市街地に相応しい土地利用計画を策定・実施できればと考えております。